



NEWS LETTER



これからの地方自治・地方政策を考える

連続自治体特別企画セミナー



第4回セミナー

11月28日(木)、「地域の縁がわでつながる!〜くまもと発まちづくり型福祉の展開〜」と題して、熊本県健康福祉政策課 福祉のまちづくり室長の新谷良徳(しんたによしのり)氏と、NPO法人とら太の会理事長の山下順子(やましたじゅんこ)氏にご講演いただきました。

新谷氏からは、熊本県の地域福祉支援計画や地域の縁がわづくりについて、県内の様々な事例を織り交ぜながらご説明いただきました。山下氏からは事例報告として、地域がどうお互いを受け入れていき、現在に至ったかについてお話をいただきました。

また、お2人の講演の後は、本学公共政策学部の築山崇教授にコメントをいただきながら、フロアとの質疑応答を行ないました。

【参加者の声】

- ・地域の中でいつまでも暮らしていける仕組みづくりについて、あらためて考えさせられる機会になった。地域の人々との結びつき、地域資源の再発見・活用、人・物・情報のネットワークの大切さ、そこに住む人々の普段の姿・環境を大切に自然な地域づくりが大事。(京都府内市町村職員)。
- ・制度に穴をあけることと、必要な制度はつくることができることは、表裏一体ではないかと思いました。(京都府職員)
- ・子を持つ親として障害者の親御さんや山下さんが地域との取り組みを進められる中いろいろなお苦労があったであろうと思うと、胸が詰まる思いでございました。それぞれの違いを認め合い、重なる点を探し、ともに手を取り合っていく社会。私も共感いたします。(団体職員)
- ・新谷さんの「タテ割りの制度を横断的に活用していく必要がある」というお言葉が印象的でした。(京都府立大学学生・院生)
- ・山下さんの話がすごく良かった。居場所をほしいというたくさんの方に聞いて欲しかった。(京都府内市町村職員)

連続自治体特別企画セミナー 年間計画

今年度ラスト

第5回 2月20日(木)

◆内容・講師などの詳細は、KPIホームページをご覧ください。

後援等について

KPIでは、共催や後援、協賛、協力というかたちで、地方自治体や企業、NPOと連携しながらイベント等を開催しています。

ご希望の方はKPIホームページの「諸手続き」にある、「後援等申請書」にご記入の上、メール又はFAXにてご連絡ください。

京都府立大学
京都政策研究センター
〒606-8522
京都市左京区下鴨半木町1-5
Tel & Fax : 075-703-5319
mail : kpiinfo@kpu.ac.jp

セミナーのご案内やニュースレターなどをメールマガジンで配信しています。ご希望の方は、上記メールアドレスまでご連絡ください。

2013年1月1日発行



第5回セミナーのご案内

2月20日(木) 15:00~17:15



参加をご希望の方は、お電話、E-mail、FAXでお申し込みください。



対象者：自治体職員・議員、研究者、学生ほか広く府民一般
場 所：京都府職員研修・研究支援センター 2F 視聴覚室

「半農半X」からのソーシャルデザイン

講 師：塩見直紀(しおみ なおき)氏(半農半X研究所代表)

対談者：三橋俊雄(みつはし としお)教授(京都府立大学大学院・環境デザイン学科)

京都は綾部発で生まれた「半農半X」。これは「自分や家族が食べる分の食料は小さな自給農でまかない、残りの時間は「X」、つまり自分のやりたいこと(ミッション)に費やすという生き方」という意味ですが、最近は「ライフデザイン」としてだけでなく、社会的な課題と同時に、新たな価値を創出する「ソーシャルデザイン」としても注目されています。

今回はそんな「半農半X」の提唱者であり、自ら実践者でもある塩見直紀氏を講師に、京都府北部地域を中心にデザインの力で地域づくりを支援し続けている本学部環境デザイン学科の三橋俊雄教授をコメンテーターにお迎えし、『「半農半X」からのソーシャルデザイン』をテーマに語って頂きます。

*当日は、USTREAMでの中継も予定しております。

*詳細はKPIホームページ等をご覧ください。



京都府との協働研究

公開セミナー「薬物依存をもつ人とそのご家族の体験から学ぶ

—薬物依存という病気とその回復」を開催

「薬物乱用防止相談に関する調査研究」の一環として、11月15日（金）に中丹勤労者福祉会館で公開セミナーを開催しました。本学公共政策学部、山野尚美准教授や京都ダルクスタッフの講演を始め、薬物依存をもつ人やその家族から体験談を語って頂きました。

まず、山野准教授による薬物依存とその回復に向かう過程や、ピアサポートの重要性を、ダルクスタッフの方からはダルクについての説明やダルクの重要性をお話いただきました。薬物依存をもつ人やその家族の方達からは、それぞれにどのような過程を経て今に至っているかを伺いました。

当日は約50名の方にご参加いただき、本研究の一環で作成したリーフレットもたくさんお持ち帰りいただきました。



写真は左から、
 ・第3回北前船港町・城下町研究会
 ・市町村連絡会議（京都府との協働研究）
 ・「薬物依存をもつ人とそのご家族の体験から学ぶ—薬物依存という病気とその回復の様子」セミナー（京都府との協働研究）の様子

市町村連絡会議・合併団体連絡会議を開催

10月末～11月にかけて、京都府内市町村に集まっていただき「市町村連絡会議」「合併団体連絡会議」を開催しました。

全体を通して、本学の教員や外部講師の講演の後、いくつかの市町村が各自の取り組みについての報告を行い、それに対して講師等がコメントをする形で実施しました。

市町村それぞれに悩みを抱えながらの運営かと思えますが、テーマごとに一堂に会し、他市町村の取り組みに触れ、また情報交換・意見交換をする、つながりを作るきっかけを作ることが出来たように思います。

今後は、これら会議のアンケート結果も踏まえ、年度末に向かってまとめの作業に入る予定です。

日時	テーマ
市町村連絡会議 ※カッコ内は、発表者	
10月31日	税外債権（小沢教授）
11月11日	公共施設マネジメント（川勝准教授）
11月14日	人材育成（杉岡講師）
11月22日	行政評価（窪田准教授）
合併団体連絡会議 ※カッコ内は参加者	
8月1日	財政需要項目候補等 （青山教授、川勝准教授、杉岡講師）
11月28日	財政シミュレーション等（川勝准教授）



ACTR 北前船港町・城下町まちづくり構想 研究会を開催中

公募により選ばれた市民等で構成される上記研究会を宮津市役所とともに、これまで3回にわたって宮津市内で開催しています。

第1回目は、以前ニュースレターでもお伝えした北前船西回り航路の起点として栄えた酒田市のまちづくり調査の概要をKPIから市民の皆さんにお伝えし、市民の皆さんに北前船や宮津市のまちづくりへの思いを語っていただきました。

第2回目は、宮津観光アテンドまちなかの会さんから北前船と宮津との関わりについて報告いただいた後、グループワークを行い、第1回目にKPIから出させていただいた「宿題」をもとに、宮津の海辺やまち中でやりたいことや将来への希望、北前船を自分の仕事や生活にどう活かしていけるかについての話し合いをしました。



玄関丸たきで使われている笏谷石@旧家



舌の生した笏谷石@金比羅神社

第3回目は、北前船ゆかりの地である由良地区で研究会を開催し、まず、現地あるきとして、福井市の足羽山で採掘され、北前船のバラスト（重石）としても使われていた笏谷石（しゃくだにいし）が参道の敷石、狛犬等で使われている寺社仏閣や玄関たきで使われている旧家などを見て回りました。その後、第2回目研究会で出た意見ごとに作ったグループに分かれ、それぞれおもてなしやお土産、歴史・教育、魅力発信などについて話し合いました。

今後は、話し合いで出てきたアイデアを膨らませながら、事業として実施していくための構想としてとりまとめ、宮津市長や北前船まちづくり委員会に提言する予定です。



KPIリレーコラム

センター長

青山公三



Happy Holidays & Happy New Year!!

本年も昨年にも増してKPIをどうぞよろしくお願いたします。

日本ではクリスマスの頃になると、どこもかしこもMerry Christmasであふれかえっています。テレビもラジオも、カーナビまでがエンジンをかけたらMerry Christmasと言います。

アメリカのテレビやラジオでは、不特定多数の人々に呼びかけるときには決してMerry Christmasとはいいません。ユダヤ教徒もイスラム教徒も、そして仏教徒を含む多くの他宗教を持つ人々がいますので、どの宗教にも通じるHappy Holidaysを使います。

日本人は随分宗教に無頓着な国民になってしまいました。仏教徒であったはずのじいちゃんばあちゃんが、孫の結婚式で賛美歌を歌わせられるのです。日本人の一部の駐在員たちは在米中も帰国後も、知り合ったユダヤ人達にMerry Christmasのメッセージの入ったクリスマスカードを送ってくと知り合いのユダヤ人が言っていました。

府大も含む多くの大学が国際化をめざそうとしている今、こんな些細な気遣いが国際化には必要なかもしれません。



KPIのfacebookにアクセスして情報をチェック!